

2025年3月期 第1四半期 決算説明資料



株式会社ヴィア・ホールディングス

2024年8月6日

東証スタンダード 7918



2025年3月期 第1四半期 決算概要

業績サマリー	4
既存店売上推移	6
業態別店舗数	7
損益分岐水準	8

事業の状況

業態ポートフォリオ	10
事業動向	11

今期計画

2025年3月期 連結業績予想（前期比）	23
----------------------	----

Appendix

貸借対照表	25
損益計算書	26
株主優待	27

2025年3月期 第1四半期 決算概要

業績サマリー 第1四半期 (2024年4月1日～2024年6月30日)



	当期 第1四半期	前期 第1四半期	前期比
売上高	43.3億円	41.3億円	+ 2.0億円
営業利益	1.1億円	△0.2億円	+ 1.4億円
経常利益	1.0億円	△0.4億円	+ 1.4億円
四半期純利益	0.4億円	△0.7億円	+ 1.2億円

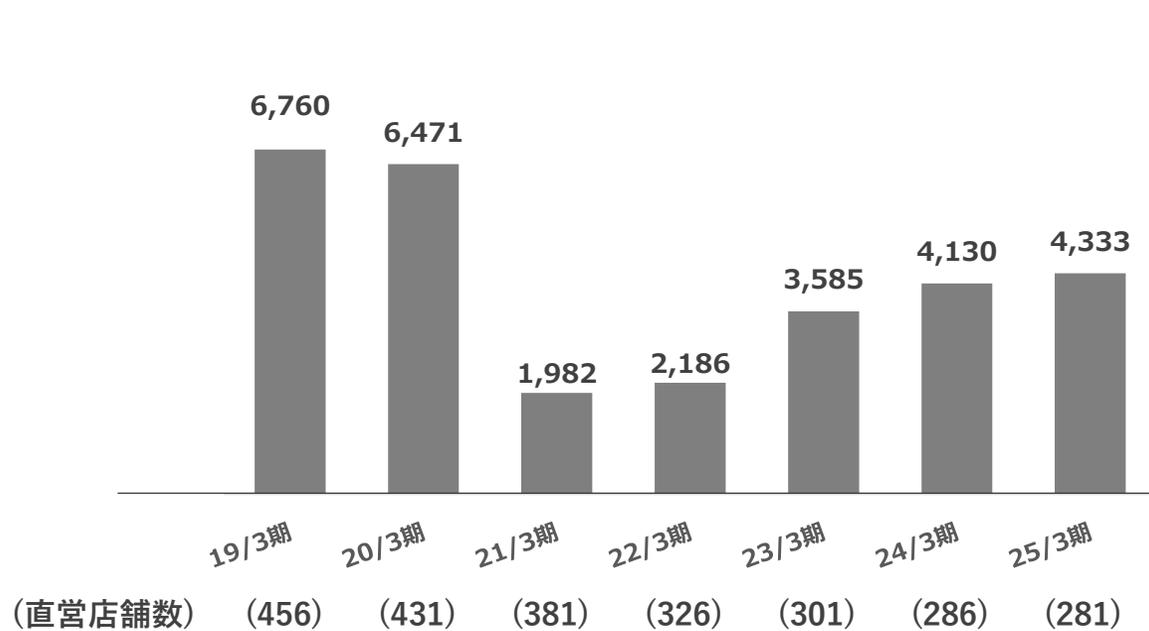
- 既存店売上は2019年比でも100%を上回り前期比+2.0億円
- 収益構造改革により、環境変化によるコスト上昇分を吸収
- 当期利益を含めた全てのPL科目において黒字を継続

業績サマリー 連結業績推移（第1四半期）

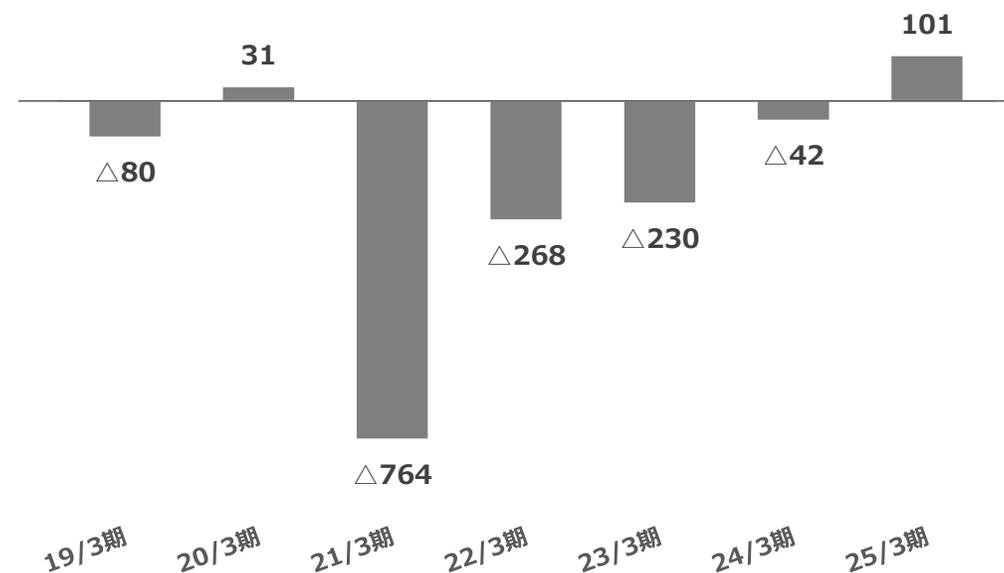


売上高

(単位：百万円)



経常利益



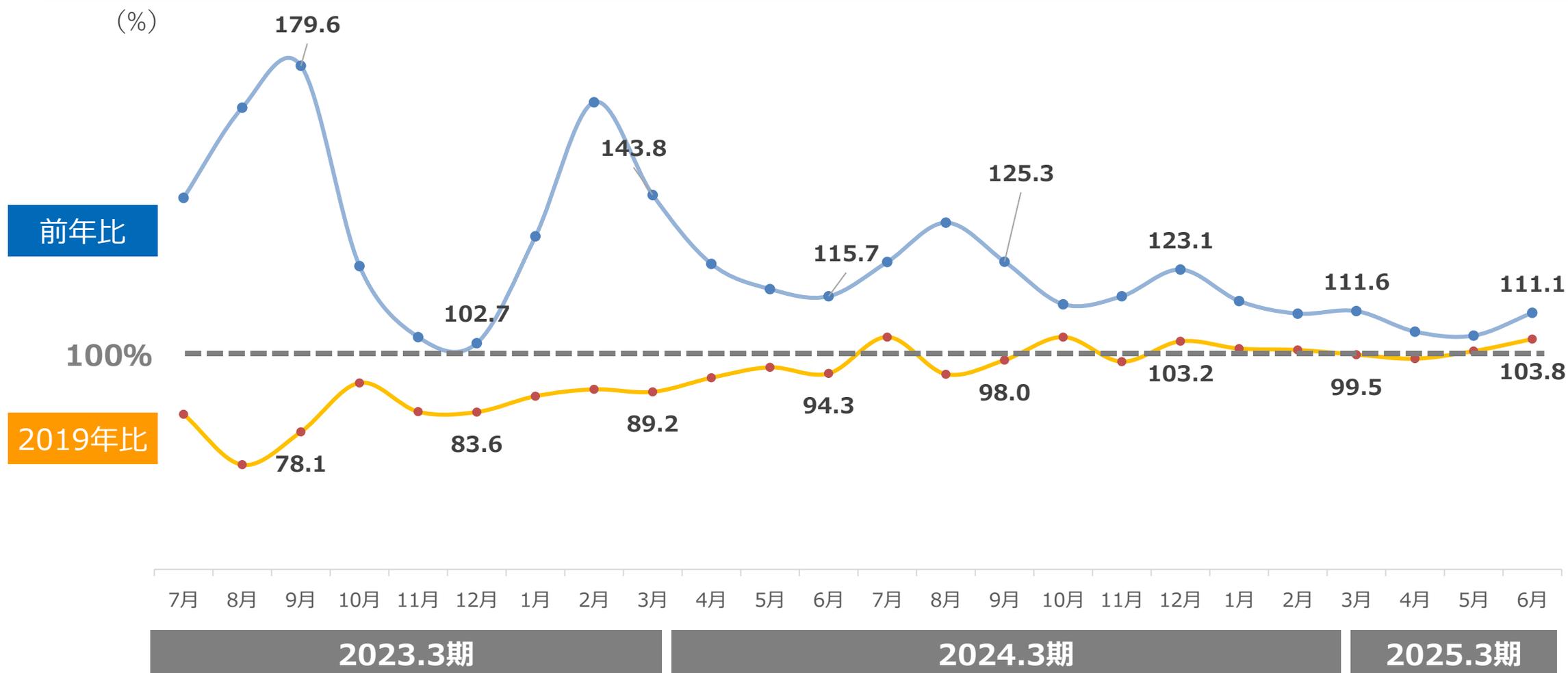
- 1店舗当たりの売上高は19年3月期を上回る水準に回復
- 不採算店舗の撤退、収益構造改革により経常黒字化

既存店舗 売上高 推移

前年比 / 2019年比



2019年比でも約100%を上回る水準で推移。
足下ではグループの損益分岐点を越える水準を維持。



業態別店舗数



事業会社	業態	2024年3月期末	2025年3月 第1四半期末			増減
		店舗数	出店	退店	店舗数	
扇屋東日本 扇屋西日本	備長扇屋・やきとりの扇屋・ 炭火やきとりオオギヤ	159 (28)	1 ※1	2 (1)	158 (28)	-1
	オオギヤと宇奈とと しんぱち食堂・他	36 (—)			36 (—)	+0
紅とん	日本橋紅とん	22 (—)		1	21 (—)	-1
	ぼちぼち・他	7 (—)			7 (—)	+0
一源	いちげん・とりげん・他	10 (—)			10 (—)	+0
一丁	魚や一丁	5 (1)			5 (1)	+0
フードリーム	パステル・他 FR(洋食系)	36 (—)			36 (—)	+0
	FR (中華系)	15 (—)			15 (—)	+0
	カジュアル・ダイニング (バル)	22 (—)			22 (—)	+0
グループ合計		312 (29)	1	3 (2)	310 (29)	-2

※1 FCから直営へ転換

※2 () 内は、FC/のれん分け

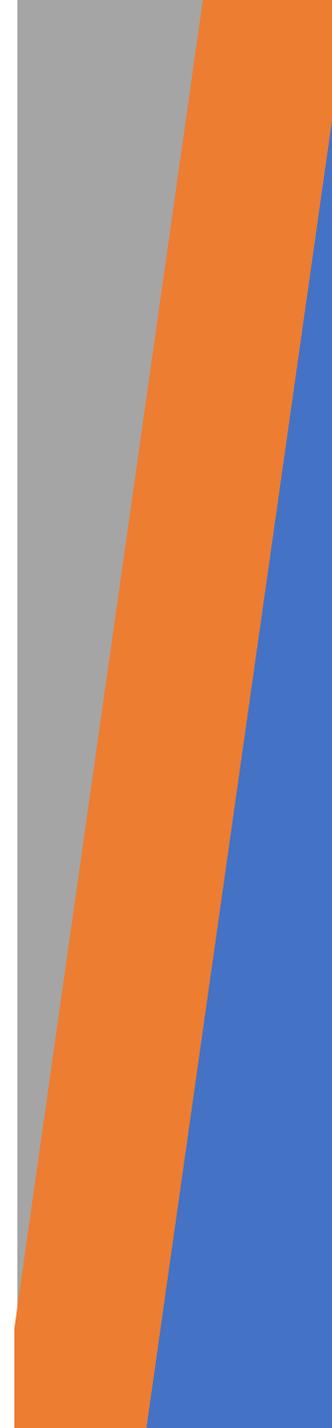
損益分岐水準



- 2021年4月の事業再生計画（ADR計画）からは、経営環境の変化が進行
- コスト増加等による損益分岐点の上昇を、収益構造改革で抑える

2021年4月 ADR再生計画	マイナス要因	収益構造改革	現在	直近
<u>損益分岐水準</u>			<u>損益分岐水準</u>	<u>4～6月実績</u>
売上高 75.0%	・ 行動様式変化	・ 原価低減	売上高 95.0%	売上高 100.9%
客数 73.0%	・ 原材料↑	・ メニュー戦略	客数 83.0%	客数 84.4%
	・ 人件費↑	・ 生産性改善		
	・ 光熱費↑	・ 人員最適化		
(2019年比較)	・ 営業費↑	・ オペレーション構築	(2019年比較)	(2019年比較)
		・ 他		

事業の状況



業態ポートフォリオ



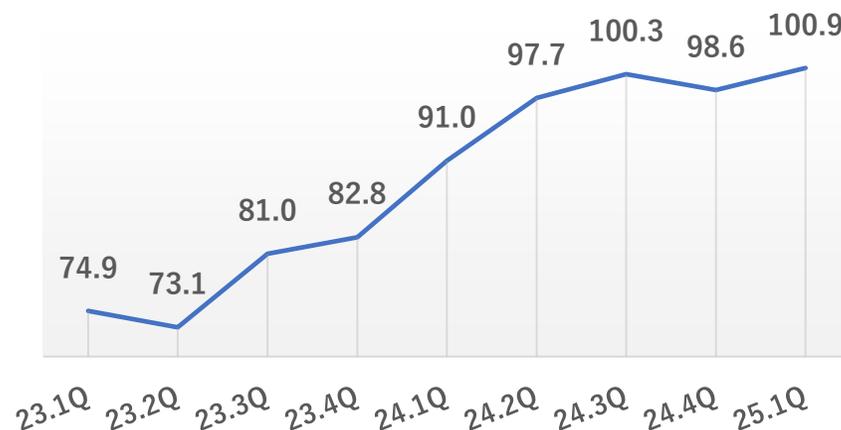
業態	備長扇屋 やきとりの扇屋 炭火やきとりオオギヤ	日本橋 紅とん	魚や一丁	いちげん	FR (洋食系)	FR (中華系)	カジュアル ダイニング (バル)	ぼちぼち
								
客単価	2,500円	2,500円	3,500円	2,800円	1,500円	1,200円	2,000円	2,250円
ターゲット	ビジネスパーソン ファミリー	ビジネスパーソン	ビジネスパーソン アクティブシニア	ビジネスパーソン ファミリー 地域の集まり	女性グループ	女性グループ	若者グループ カップル	若者グループ ファミリー
出店立地	郊外RSタイプ 駅前BIタイプ	駅前BIタイプ	駅前BIタイプ	駅前BIタイプ	インショップ (商業コンプレックス)	インショップ (商業コンプレックス)	インショップ (商業コンプレックス)	駅前BIタイプ
面積／席数	40坪／80席	25～30坪／70席	150坪／250席	100坪／180席	50～60坪／70席	50～60坪／70席	50～60坪／70席	40坪／60席
標準投資額	4,000万円	3,000万円	8,000万円	8,000万円	3,500万円	3,500万円	6,000万円	4,000万円

※ RS : ロードサイド BI : ビルイン



売上高 2019年比 推移

動 向



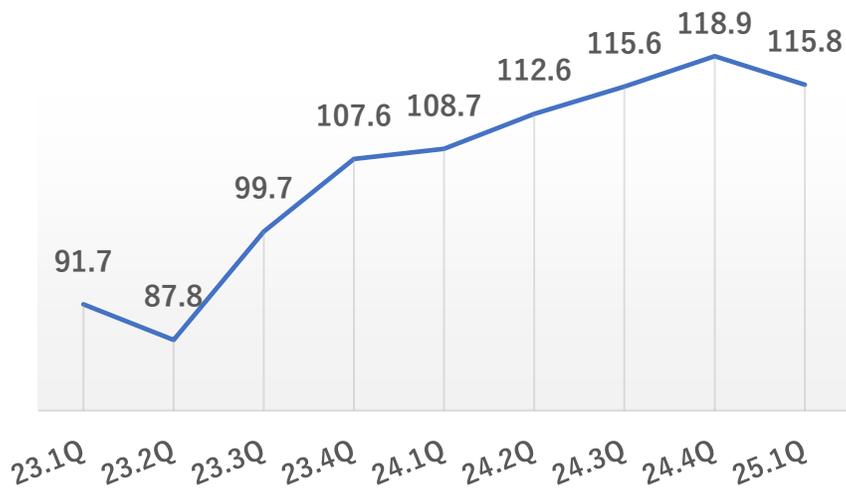
- 前期、メイン商品（主に焼鳥）の品質と技術を向上させる施策を実施。
- メニュー戦略により客単価が堅調に伸長。
- 今期は、サービス力向上に注力。
- 抜本的な収益構造改革にも着手している。



- 前期、メニュー戦略により客単価が堅調も、ディナータイムの客数が鈍化。
- ティータイムに客数増を目的としたデザートメニューを導入。
- 地域ごとの客層に合わせて、立地別価格パターンを導入。

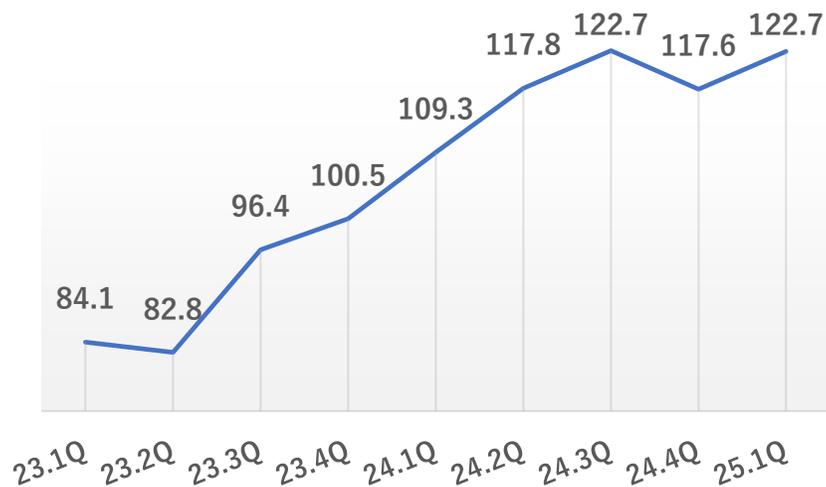


売上高 2019年比 推移



動 向

- 前期、メイン商品と生ビールの品質と技術を向上させる施策を実施。
- 内外装のメンテナンスを実施。また、客席数を増やす投資により、ピークタイムの客数アップ施策が成果を上げる。
- 新規出店、新業態出店を加速させる。

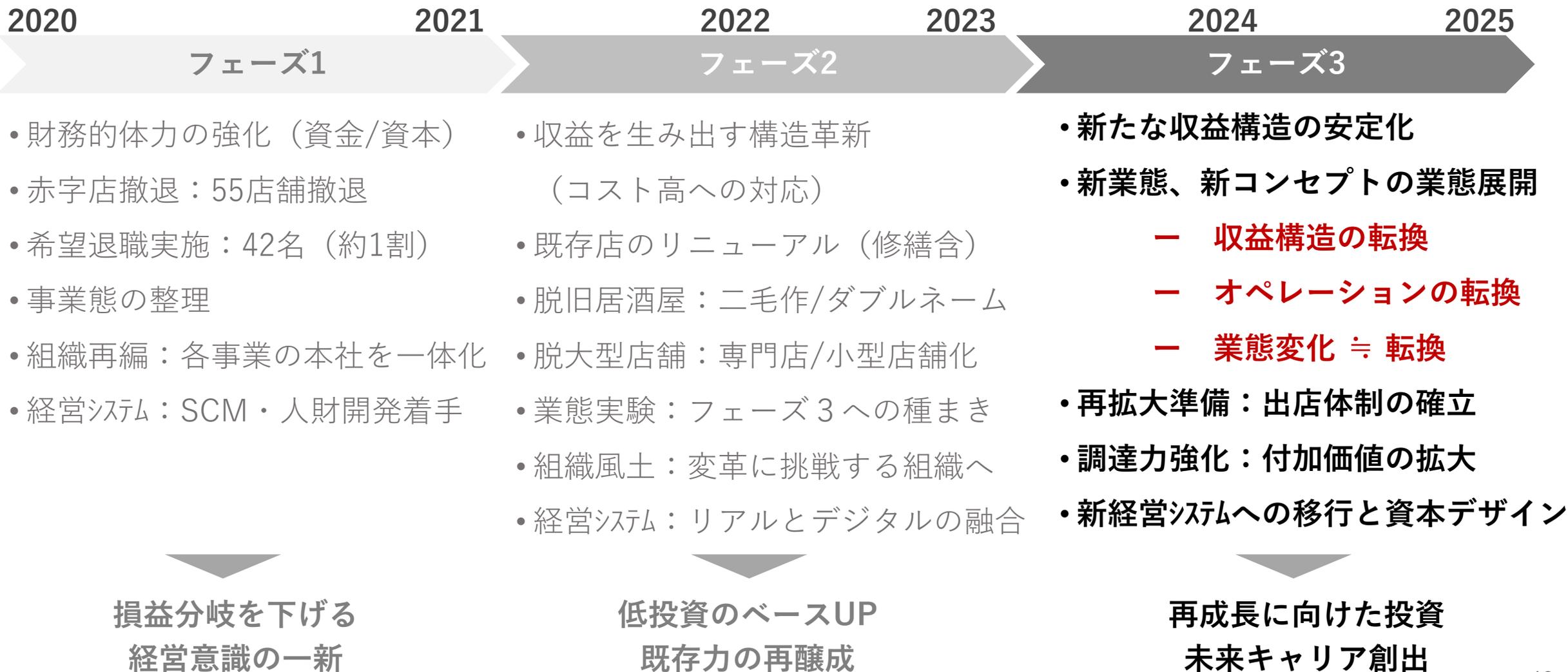


- 「宴会」の売上高は、コロナ前の同水準に回復。
- 客数も、コロナ前を上回る水準で推移。
- 水産物の原材料値上げの影響で原価圧迫。収益構造の再構築に着手している。

事業動向 成長ロードマップ



再生から再成長「第3フェーズ」へ



事業動向 第3フェーズ



2023

2024

2025

フェーズ3

- 新たな収益構造の安定化
- **新業態、新コンセプトの業態展開**
 - ー 収益構造の転換
 - ー オペレーションの転換
 - ー 業態変化 ≡ 転換
- 再拡大準備：出店体制の確立
- 調達力強化：付加価値の拡大
- 新経営システムへの移行と資本デザイン

再成長に向けた投資
未来キャリア創出

「みよちゃん食堂」食動機強化の業態実験

炭焼 大衆食事処
やきどり みよちゃん食堂

- 2023年4月に「扇屋」からの食動機型へ業態転換。
- アイテムや価格を見直しを繰り返し実施し、黒字へ転換。
- インスタを軸としたSNS施策に注力。





2023

2024

2025

フェーズ3

「扇屋」新たな顧客ターゲットの実験



• 新たな収益構造の安定化

- 新業態、新コンセプトの業態展開
 - 収益構造の転換
 - オペレーションの転換
 - 業態変化 ≡ 転換
- 再拡大準備：出店体制の確立
- 調達力強化：付加価値の拡大
- 新経営システムへの移行と資本デザイン

再成長に向けた投資
未来キャリア創出

- 入店困難の人気ラーメンを、味をそのままに扇屋店舗で販売。
- 5月から3店舗で実験をスタートし、7月に30店舗へ拡大。



むかん／牡蠣塩ラーメン

「食べログ ラーメン TOKYO 百名店 2023」選出の超予約困難店



濃麺海月（こいめんくらげ）／鶏濃麺

千葉県で最強と謳われる濃厚スープ



2023

2024

2025

フェーズ3

- 新たな収益構造の安定化
- 新業態、新コンセプトの業態展開
 - ー 収益構造の転換
 - ー オペレーションの転換
 - ー 業態変化 ≡ 転換

再拡大準備：出店体制の確立

- 調達力強化：付加価値の拡大
- 新経営システムへの移行と資本デザイン

再成長に向けた投資
未来キャリア創出

「日本橋紅とん」出店体制の確立

炭火串焼き専門店

日本橋 

- 2023年8月に「吉祥寺南口店」を新規オープン。出店エリア、ターゲット、主力メニューなど、これまでの紅とんにはないチャレンジを実施し、オープン後1年経過するも順調に推移。
- 今期は、2店舗の新規出店を計画。
(2024年7月に西葛西店を新規オープン)



事業動向 第3フェーズ



2023

2024

2025

フェーズ3

- 新たな収益構造の安定化
- **新業態、新コンセプトの業態展開**
 - 収益構造の転換
 - オペレーションの転換
 - 業態変化 ≡ 転換
- 再拡大準備：出店体制の確立
- 調達力強化：付加価値の拡大
- 新経営システムへの移行と資本デザイン

再成長に向けた投資
未来キャリア創出

新コンセプト業態「魚とん」の実験



- 2024年8月に「紅とん」からの転換。
- 既存紅とんの強みを生かしつつ、鮮魚・炭火焼魚串・海鮮一品に挑戦。
- ターゲット
 - 30代～50代サラリーマン
 - 地域に住んでいる居酒屋好きなお客様





2023

2024

2025

フェーズ3

- 新たな収益構造の安定化
- 新業態、新コンセプトの業態展開
 - ー 収益構造の転換
 - ー オペレーションの転換
 - ー 業態変化 ≡ 転換
- 再拡大準備：出店体制の確立
- 調達力強化：付加価値の拡大

新経営システムへの移行と資本デザイン

再成長に向けた投資
未来キャリア創出

人的資本への投資再開

- コロナ禍に抑えていた人的資本への投資を再開。
- 2024年4月にグループ全体のベースアップを実施。ベースアップおよびインセンティブ制度により、平均約4%の引き上げ。
- 「人財づくり」を軸とした経営を推進するため、人財開発&ダイバーシティ推進部を新設。
- 各階層別の研修体系を見直しとグループで一貫した研修を実施。
- 今秋には「社内独立制度」「新たな雇用形態制度」「ミドルポジション強化」を実施予定。これによるミドル、シニアの働き方の一層の充実を図る。



2023

2024

2025

フェーズ3

• 新たな収益構造の安定化

- 新業態、新コンセプトの業態展開
 - ー 収益構造の転換
 - ー オペレーションの転換
 - ー 業態変化 ≡ 転換
- 再拡大準備：出店体制の確立
- 調達力強化：付加価値の拡大
- 新経営システムへの移行と資本デザイン

再成長に向けた投資
未来キャリア創出

「新たな収益構造」と「本質への回帰」

メニュー戦略

- 業態ごとの主力カテゴリ強化（本質への回帰）
例えば、扇屋、紅とんは、焼き師制度の見直しで炭火焼の技術向上。
- 戦略的な季節メニューの投入。
- 業態特性に合わせた新カテゴリの実験。

省人化オペレーション

- 品質向上と省人化を目的としたオペレーションと新たな技術（機器等）の導入実験を開始。
- テーブルオーダーシステムやフロアサービスロボットの導入。

事業動向 第3フェーズ



2023

2024

2025

フェーズ3

• 新たな収益構造の安定化

• 新業態、新コンセプトの業態展開

- 収益構造の転換
- オペレーションの転換
- 業態変化 ≡ 転換

• 再拡大準備：出店体制の確立

• 調達力強化：付加価値の拡大

• 新経営システムへの移行と資本デザイン

再成長に向けた投資
未来キャリア創出

「新たな収益構造」と「本質への回帰」

価格戦略

- 立地別時間帯別価格パターン。
- 高付加価値商品の投入。
- メインカテゴリの高コスト化。
- メニューミックスによる満足度の向上と原価抑制。



調達構造

- 調達チャネルの多様化。
- 事業ごとに分かれていた購買調達やメニュー開発部門の一本化。
- 規格や条件変更、各業態の共通食材などを整理しスケールメリットを活かした価格交渉。



2023

2024

2025

フェーズ3

- 新たな収益構造の安定化
- 新業態、新コンセプトの業態展開
 - ー 収益構造の転換
 - ー オペレーションの転換
 - ー 業態変化 ≡ 転換
- 再拡大準備：出店体制の確立
- 調達力強化：付加価値の拡大
- **新経営システムへの移行と資本デザイン**

再成長に向けた投資
未来キャリア創出

再成長に向けた資金調達の実施

新株予約権

行使価額修正条項付新株予約権の発行（2024年1月）
（目的）

- 新規出店や業態転換による店舗拡大。
- DXによる新経営システムへの移行。
- 安定的な財務体質の構築。

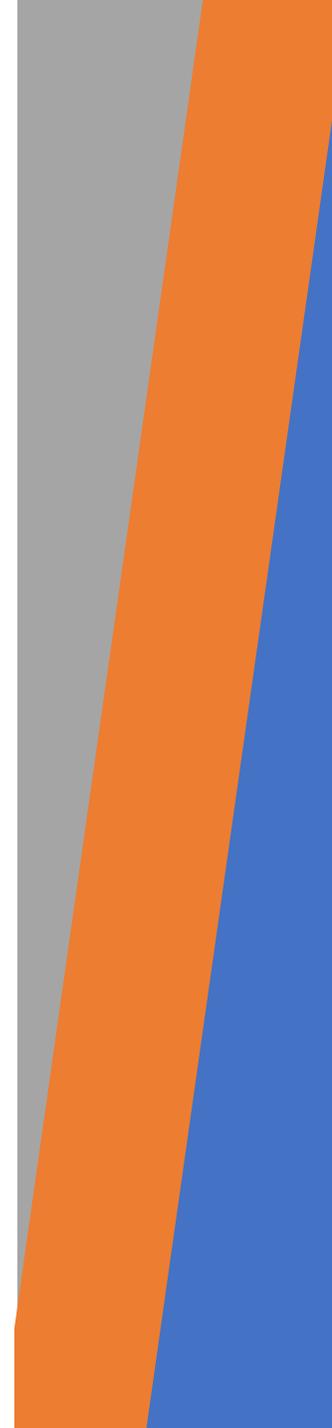
（経過）

- 2024年6月までに、新株予約権の行使に伴う新株発行により、232百万円を資金調達。

調達スキーム

設備投資に向けた新たな調達スキームの導入検討着手。

今期計画



2025年3月期 連結業績予想（前期比）



	2025年3月期 (予想)	2024年3月期 (実績)	差異
売上高	17,500百万円	16,981百万円	+518百万円
営業利益	450百万円	325百万円	+124百万円
経常利益	370百万円	249百万円	+120百万円
当期純利益	220百万円	216百万円	+3百万円

Appendix



貸借対照表 第1四半期連結業績



(2024年4月1日～2024年6月30日)

(単位：百万円)

	2025年3月期 第1四半期末	2024年3月期 期末	前期比
流動資産	2,123	2,797	△674
固定資産	4,539	4,508	+31
繰延税金資産	6	7	△1
資産合計	6,668	7,313	△644
流動負債	2,366	2,534	△167
固定負債	3,206	3,472	△266
負債合計	5,573	6,007	△434
純資産合計	1,095	1,306	△210
負債純資産合計	6,668	7,313	△644

損益計算書 第1四半期連結業績



(2024年4月1日～2024年6月30日)

	2025年3月期 第1四半期		2024年3月期 第1四半期		前期比	
	金額(百万円)	売上比(%)	金額(百万円)	売上比(%)	金額(百万円)	売上比(%)
売上高	4,333	—	4,130	—	+202	—
売上原価	1,390	32.1	1,372	33.2	+18	△1
売上総利益	2,943	67.9	2,758	66.8	+184	+1
販売費及び 一般管理費	2,826	65.2	2,787	67.5	+38	△2
営業利益	116	2.7	△28	△0.7	+145	+3
経常利益	101	2.3	△42	△1.0	+143	+3
親会社株主に 帰属する当期純利益	46	1.1	△74	△1.8	+121	+3



ご優待内容

「株主割引券」をお食事の割引券としてご利用いただけます。

ヴィアグループが全国で展開をする店舗で、1回のご飲食代金が1,000円（税込）ごとに1枚（250円割引）ご利用いただけます。

配付数

保有株式数	株主割引券
100～299株	年間 2,500円相当
300～599株	年間 5,000円相当
600～999株	年間 7,500円相当
1,000株～4,999株	年間 10,000円相当
5,000株～9,999株	年間 15,000円相当
10,000株以上	年間 20,000円相当

- ・ ご優待対象は、保有株式数100株以上の株主様
(1年ごと、3月末日時点で株主名簿に記載されている株主様)
- ・ 保有株式数10,000株を上限に設定



【注意事項】

資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

また、当資料に記載されている当社の現在の計画、戦略などは、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらの将来予測には、リスクや不確定な要因を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果になることがあり得ます。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

【お問合せ先】

株式会社ヴィア・ホールディングス 経営企画担当

TEL : 03-5155-6801

E-mail : via-ir@via-hd.co.jp